

# リニアやまなしビジョン（仮称） の策定について

令和元年9月13日

山梨県

# リニアやまなしビジョン（仮称）策定の趣旨

## 現状認識

- ✓ リニア開業は大きな転換点であり、県内経済にとってまたとないチャンス
  - － 中央線や中央自動車道の開通以来の歴史的な出来事

➡ 県民生活の豊かさに繋げなければならない

## 問題認識

- ✓ リニアの駅さえできれば、人が来るということは決してない
  - － 受け身の姿勢でいれば、ただの通過駅になってしまう

➡ 積極的に山梨に来てもらえる理由づくりが必要

## アプローチ

- ✓ 確実に山梨に富を呼び込み、県全体の利益の最大化に繋げる
  - － 民間企業や研究機関などを誘致し、県内経済を活性化させることで好循環を生み出す

➡ 誘致の実現可能性や、その手順等を明らかにする

リニアやまなしビジョン（仮称）

# ビジョンの策定に向けた検討体制

- 人を呼び込む理由として、何をどうやって誘致するかということを経営志向で議論【ワーキンググループ】
- 産業構造や現行制度などの背景要因を踏まえ、大局的な視点で実現可能性を評価【検討会議】
- 民間企業や研究機関などの誘致方針や駅周辺の基盤整備内容は、事業主体や資金負担のあり方を重視

## 検討体制

### ◎ 検討会議

#### ✓ 民間企業や研究機関などの誘致の方針を決定

⇒ WG検討結果を踏まえ、誘致に向けて、どのような手順で戦略的に取り組むのか方針を決定

(例)

- ・ 「大規模展示場・会議場」産業の誘致
- ・ 第4次産業革命関連の工科大学、研究機関などの誘致
- ・ 首都バックアップ機能と国の出先機関等の誘致

#### + 駅周辺の基盤整備内容を決定

⇒ 誘致方針やリニア駅乗降客数等の推計を踏まえ、当面必要となる基盤整備の内容を決定

### ワーキンググループ

#### ✓ 誘致の実現可能性を精査

⇒ 市場動向等を分析し、本県オリジナルな価値を訴求する中で、誘致の実現可能性を精査

#### ✓ 誘致に向けて必要となる手順等を整理

⇒ 誘致のターゲットを絞り、誘致に向けて必要となる条件や手順等を整理

## スケジュール

令和元年7月26日 検討会議立ち上げ

9月13日 ワーキンググループ設置

～以降、随時開催～

令和2年2月上旬 素案決定

3月下旬 ビジョン策定

## アウトプット（イメージ）

ポテンシャル → 現状分析による競争優位性

理由づくり → 誘致の実現可能性

誘致方針 → 誘致に向けて必要となる手順等

基盤整備 → 当面必要となる基盤整備内容

# 本県への誘致を検討する施設例

## 【例1】 大規模展示場・会議場

- リニア開業により、羽田空港からのアクセスは「ビッグサイト」と同じ時間距離
- 新駅計画地周辺は、他の中間駅にはない広大な平地地帯に位置
- 来場者によるプラス効果を県下の観光地など、県内全体に波及させる可能性

**世界からビジネスマンが集まる「大規模展示場・会議場」産業**

【参考：県内にある既存資源】

アイメッセ山梨

- ・ 県内最大のコンベンション施設（H7年7月オープン）  
展示面積：約5,000㎡ 大会議室：150席

## 【例2】 第4次産業革命関連の工科大学、研究機関等

- リニア開業により、東京と名古屋という日本の産業拠点へのアクセスが飛躍的に改善
- 全国的な課題として、Society5.0に対応するためには人材育成の抜本的な加速化が必要
- 「研究開発」や「企画設計」部門は新幹線駅と高速道路ICの双方を立地選択条件として重視

**クリエイティブな交流が生まれる拠点、工科大学や研究機関等**

【参考：県内にある既存資源】

山梨大学工学部

- ・ 将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究機関  
(機械工学、電気電子工学、コンピュータ理工学、情報処理工学、土木環境工学、応用化学、先端材料理工学)

## 【例3】 最先端技術・スタートアップ企業

- 過疎や人手不足等の課題解決に向け、先端技術を活用した新事業創出、地域活性化の動き（ロボット、自動運転など）
- 社会課題が顕著な地方ならではの良質なデータ収集と、実証研究フィールドのポテンシャルを有する
- 多くの情報や人材が集まる東京まで約25分という立地でありながら、創造性や独自性を生かせる環境が広がる

**パイロット・プリフェクチャー（実験的先進県）として最先端技術の研究拠点やスタートアップ企業**

## 【例4】 首都のバックアップ機能と国の出先機関等

- 人口や本社、首都機能が東京に過度に集中
- 首都直下型地震等、万一の巨大な人的・経済的損失や国家の機能損失への懸念
- 本県は、近年大規模災害に見舞われておらず、東京にも近いという地の利を有する

**いざという時に国民生活や経済活動等の継続に資する首都機能を補完する施設等**

# 第1回検討会議の概要

- 日時：令和元年7月26日（金）14:00-15:55
- 会場：都道府県会館410会議室  
（東京都千代田区平河町2-6-3）
- 出席：知事（議長）、知事政策補佐官、  
県土整備部理事、産業労働部次長、  
リニア交通局

## 委員

1	東 博暢	（株）日本総合研究所
2	岩倉 成志	芝浦工業大学
3	恩藏 直人	早稲田大学
4	加藤 晋	産業技術総合研究所
5	佐々木邦明	早稲田大学
6	鈴木 克宗	（一財）道路新産業開発機構
7	高橋 宰	元 野村不動産（株）
8	武田 文男	政策研究大学院大学
9	田中 道昭	立教大学ビジネススクール
10	額田 春華	日本女子大学
11	廣川 克也	（一財）SFCフォーラム
12	美原 融	東洋大学大学院
13	廻 洋子	敬愛大学
14	山本 和志	元 国土交通省

※武田委員は欠席

## 理念設定

- ✓ どのような思想・哲学で街づくりを考え、その中でリニアの果たす役割をどう考えていくか
- ✓ 山梨しかありえない、明快でユニークなビジョンを打ち建てるべき  
（例：「21世紀のスマートシティ型のスイス」）
- ✓ ビジョンの目標年次の設定

## ポテンシャル検証

- ✓ 山梨県の強みだけでなく、弱みを徹底的に考えていく必要
- ✓ 事業環境／住居環境へのインパクト（地価の安さを他地域と比較）
- ✓ リニア+中央線の幹線鉄道2本となる状況をどう生かしていくか
- ✓ 駅と中央道の直結で、全乗車系が視野に入り、地政学的優位性向上
- ✓ 東南海トラフ地震を考えれば、内陸のリニア沿線価値は高まる

## 検討の視点

- ✓ 新幹線停車本数をいかに増やすかが必要
- ✓ 北陸新幹線などの中間駅で、開業後何が起きているかを検証
- ✓ 県外から山梨がどのように見られているかとの視点が必要
- ✓ 日本のエリート層の移住には、医療と子供の教育が不可欠
- ✓ 産業誘致には、県内外の産官学などあらゆるリソースを結集
- ✓ 新しく都市をつくる場合、大学・アカデミアの役割が重要
- ✓ 定住を促すには、事業環境、生活環境、教育環境を整備

## 分野別意見

### 起業支援 人材育成

- ・地域で産業が創出されるためには、起業教育が重要であり、若年層への長期間教育は、費用対効果が高く、リターンも期待

### 研究機関 先端技術

- ・山梨最大の課題をテクノロジーで解決すれば健全財政に繋がる  
「アジェンダ」をつくり、リニア駅周辺で研究者と取り組む

### 交通ネットワーク

- ・リニア開業効果の広域波及は、高速道路との結びつきがカギ
- ・交通ネットワーク障害時のリダンダンシーを確保し、産業誘致に繋げる

### 観光・MICE

- ・1時間1本停車ならば、通勤通学でなく観光での使い方を検討
- ・他県にない観光資源を連結・ネットワーク化し、回遊させる発想

# ビジョン検討会議の今後の進め方

## 検討会議

第1回

**趣旨説明、山梨の可能性等について意見交換**



第2回

**目指す理念や方向性を整理**

事業・生活・教育環境に与えるインパクトやポテンシャルを踏まえた理念・方向性を整理し、力を入れるべき分野や取り組むべき方策のアイデア出し



第3回

**誘致の実現可能性を整理**

他県の類似事例や誘致に必要な諸条件等を踏まえ、誘致の実現可能性が見込まれる施設や企業等を整理  
+ 首都機能のバックアップ体制、駅前の基盤整備



第4回

**ビジョン素案の決定**

誘致ターゲットと必要な手順、首都機能のバックアップ体制、事業化に向けた進め方・時期、駅前の基盤整備等



第5回

**ビジョン策定**

## ワーキンググループ

第1～2回

▶ **本県のポテンシャルを再評価**

- 医療・介護、産業、観光、教育などの既存リソースから何がトリガーとなり、訴求力に繋がるのか

▶ **整備新幹線事例の検証**

- 北陸新幹線などの中間駅で何が起きているか

▶ **目指す理念や方向性の検討**

- 力を入れるべき分野や課題解決に向けたアプローチ

第3～4回

▶ **理念や方向性に沿った具体的な誘致対象や方策を検討**

- 誘致に必要な諸条件（リニア駅との関連性も含む）

- 駅前及び周辺エリアの開発ポテンシャル

- 本県における競争優位性と課題の整理

+ バックアップ機能の立地に適した地域特性

第5回

▶ **実現可能性の具体化に向けた検討**

- 誘致ターゲットの絞り込み

- 誘致に向けた手順（役割分担・進め方・時期等）